

令和3年度

第3回宝塚市景観審議会議事録

日時 令和4年（2022年）3月10日（木）

午後2時00分から同5時30分まで

場所 宝塚市立中央公民館 203学習室、204学習室（リモート併用）

宝塚市景観審議会

## 1 審議会要旨

- (1) 開催日時 令和4年(2022年)3月10日(木)  
午後2時00分から同5時30分まで
- (2) 開催場所 宝塚市立中央公民館 203学習室、204学習室(リモート併用)
- (3) 出席委員等  
本日の出席委員は、10人中9人で、次のとおり。  
岩井委員、徳尾野委員、三谷委員、赤澤委員、與語委員、山根委員、前田委員、野村委員及び張間委員である。  
なお、定足数である委員の2分の1以上の出席があったので、宝塚市景観審議会規則第6条第2項の規定に基づき会議は成立した。
- (4) 傍聴者  
傍聴希望者が9名おり、宝塚市景観審議会の運営に関する規程第3条第1項および第3項の規定に基づき、公開部分の傍聴を認めた。
- (5) 会議の内容  
ア 事務局長は、宝塚市景観審議会の運営に関する規程第3条第3項の規定に基づき、本日の議題に係る会議は公開(一部非公開)であることを確認した。  
イ 議題第1号 都市景観形成建築物等(第16号)の指定の解除について(諮問)について審議を行った。  
ウ 議題第2号 宝塚大橋の歩道空間整備計画について審議を行った。  
エ 徳尾野会長は、議事録署名委員として、4番三谷委員及び6番與語委員を指名した。

## 1 議題第1号

【個人情報のため非公開(以下採決のみ公開)】

- 会長 | それでは、冒頭で申し上げました通り、議題第1号は諮問案件ですので答申の必要がございます。採決に入ります。第1号議案について都市景観建築物等第16号の指定を解除することに異議のある方は×の紙をお示しください。
- 会長 | ありがとうございます。×の紙はなく異議なしとのことですので、第1号議案について都市景観建築物等第16号の指定を解除するとして答申いたします。

## 2 議題第2号

【説明】

- 事業者 | 本日の協議ではスケジュールの見直し、整備の考え方、アンケートの調査結果、施設配置の考え方についてご説明させていただきたいと思っております。  
まず、スケジュールの見直しについてです。  
前回の景観審議会にてご意見をいただいた後、事前調査、他事例のヒアリング、整備方針の作成、アンケートの作成等を行いました。その後 Web アンケートと橋上アンケートを実施しています。  
その後、意見交換会を9月6日に行ったあと景観審議会での報告を予定していましたが、新型コロナウイルスの蔓延等によりスケジュールの見直しを行いました。順番を入れ替え、本日の景観審議会の後、意見交換会を行い、最終的にもう一度景観審議会でご意見を伺えればと思っております。  
本日の景観審議会では、アンケートの調査結果と整備の考え方についてご説明させていただきたいと考えています。

なお、今後の意見交換会では、アンケートの調査結果と整備の考え方、加えてデザインイメージの提示が出来ればと考えています。意見交換会の中でご意見をいただいたものについて、デザインイメージを修正し、景観審議会にもお持ちしたいと思っています。

続いて、整備の考え方についてまとめた資料をご覧ください。

前回の景観審議会の意見などを踏まえ、空間の活用、風景との調和、安全な通行、維持管理、という4つの視点をベースとして、それぞれを展開して整備方針を考えました。

整備方針の考え方について、空間の活用は「にぎわいを育む橋」、風景との調和は「立ち寄りたくなる橋」、安全な通行は「利用者が安心して通行できる橋」、維持管理は「長く使い続けることができる橋」というように展開しています。

1つ目の「にぎわいを育む橋」というところをもう少し細かく4つに分解しますと、宝塚南口駅から大劇場周辺施設への導きを可能とするしくみ、橋詰部に多機能広場環境を整備、観光プロムナード全体の調和をはかる整備、にぎわいの場として歩道空間を活用できるしくみ作り。

2つ目の項目については、宝塚の風景に調和した歩道空間、宝塚の代表的景観を演出する歩道空間、橋上からまわりの風景が楽しめる歩道空間、安らぎを感じる「みどり」のある歩道空間。

3つ目は、今の利用状況に対応した通行安全性の確保、災害時にも頼れる安全な道路機能の確保。

4つ目は、老朽化に対応したメンテナンスの実施、維持管理を考慮した施設の採用と配置、そしてSDGsの推進。

このような4項目でさらに細かいところも含めて整備方針を立て、アンケートの時にも提示させていただきました。ここまでが整備の考え方になります。

事業者

続いて、アンケートの調査結果についてご説明いたします。

アンケートの目的は、市民の方や橋の通行者のご意見を広く聞き、宝塚大橋の歩道空間整備計画の策定にあたって参考にさせていただくためです。

インターネットを利用したアンケートと、兵庫県阪神北県民局及び宝塚市道路政策課でアンケート用紙の配布を行いました。実施期間は令和3年12月27日（月）から令和4年1月17日（月）までの22日間で、1,605人の方からご回答をいただきました。また、実際に橋を通行されている方に直接アンケート用紙を配布する方法で令和4年1月7日（金）と1月8日（土）の2日間調査を行い、併せて330人の方からご回答いただき、一般の方と合わせて1,935人の方からご回答いただきました。

アンケートの集計結果についてご説明いたします。

設問1と2の回答者の属性は、全体の約70%が宝塚市民の方ですが、約17%は大阪府など県外の方からのご回答となっています。

年齢は30歳代以下から60歳代以上まで広くご回答いただいておりますが、橋上では60歳代以上の方が約40%と多くなっています。

設問の3と4では宝塚大橋の通行の状況をお聞きしています。通行の頻度については、毎日あるいは週に数回という方と、月に数回という方がどちらも40%台となっておりますが、橋上では毎日あるいは週に数回という方が多くなっています。通行の目的としては、買い物や散策、レジャー・観光が多くなっていますが、橋上では通勤や運動を目的とされる方も多くなっております。

設問5では、工事前の歩道空間の認識についてお伺いしました。工事前の宝塚大橋を知っていますかと言う事に、知っているとの回答が90%を超えており、知っていると答えた方のうち70%程度の方が肯定的に評価をされています。また、工事前にあった施設の中で好きなものを複数回答でお聞きしたところ、周りの風景が一番多く、レンガ調の舗装、手塚パネルと言ったものが上位を占め、緑地帯や彫刻なども一定の評価を得ています。

設問6では、橋の上の歩道空間の整備で期待することをお聞きしています。全体として、現在の宝塚に相応しい姿にして欲しいという回答が40%以上で最も多く、一般の方では、工事前に近い姿に戻して欲しいという意見、逆に橋上ではシンプルで広い歩道にして欲しいという意見となっています。

設問7では、橋の上の歩道空間にあって欲しい施設について複数回答でお伺いしました。緑地帯が最も多く、以下、ベンチ等、手塚パネル、彫刻、案内板の順になっています。

次に、設問8では、橋の歩道上や橋詰で通行以外にしたいことを複数回答でお聞きしました。武庫川や歌劇場等の眺望が他の回答を大きく上回って1位であり、次に写真撮影、休憩・談笑という順になっており、単に通過するだけの橋ではなく周辺の眺望を楽しむ方が多いという結果になりました。

また、設問9では、歩道空間の歩行できる幅とその他の施設のバランスについてお伺いしました。

A案として、2人ずつが並んでも余裕をもってすれ違える案。B案として、自転車が走っていても歩行者がすれ違える案。C案として、1人が余裕をもってすれ違える案。という3つの案を図示してお答えいただきました。

結果はA案とB案が約45%と拮抗状況です。ただ、一般ではA案が、橋上ではB案が多数を占め、C案についてはいずれも極めて少数のご意見となっています。

アンケートの最後にご意見等を自由に回答していただく欄を設けており、寄せられた回答を内容別に分類し、代表的な意見をまとめております。

まず、景観やデザインや設置物に関するご意見では「植栽やベンチなどの休憩スペースがほしい」、「昔のデザインに戻してほしい」、「レンガ舗装の景観に戻してほしい」、「彫刻に思い入れがあるため元に戻してほしい」といった以前の景観に戻すという意見がある一方で、「通行の支障となる彫刻はなくてもいい」、「歩道の広さを重視して、植栽や彫刻などの設置物は必要ない」というようなご意見もありました。

次に、通行の安全性等については、「子連れやお年寄りも多く、安全で広い歩道空間にしてほしい」、「車いすやベビーカーでスムーズに通れるように、段差をなくしてほしい」、「自転車と歩行者の接触が怖いため、自転車専用レーンの設置や降りて通行するルールを作って欲しい」、「レンガ舗装等のデザイン性はありながら、滑りにくく、段差がない舗装にしてほしい」というご意見がありました。

続いて、にぎわいや多機能性につきましては「市のシンボルとなるような、宝塚らしいデザインの橋にしてほしい」、「橋の上から大劇場や宝塚ホテル、阪急電車などの景観をゆっくり眺めたい」、「写真が撮れるスポットや立ち止まって景色が見られるようにしてほしい」というご意見がありました。

維持管理やコストにつきましては、「長期的に利用することを考えて、メンテナンスに配慮した橋にしてほしい」、「コスト面からみて、長期的に維持管理のしやすい橋にしてほしい」などのご意見がありました。

なお、このアンケート調査の結果については宝塚市のホームページに公開しております。

アンケート調査の結果につきましては以上です。

事業者

続いて歩道空間整備と整備方針の対応についてご説明いたします。前回の景観審議会でいただいたご意見への対応をお示ししています。

まず1つめの、コンセプトとイメージについては、整備方針を提示させて頂くこととイメージ図の作成をさせていただきます。

2つめ、緑の連続性については、整備方針「1. にぎわいを育む橋」として設定させていただきます。

3つめ、彫刻の有無ではなく、一帯整備が重要ということについては、同じく「1. にぎわいを育む橋」として設定いたします。

4つめ、人物像と抽象的な彫刻を同じ橋に乗せるにはデザイン力が必要だ、見たくないものを見ない権利もあるというご意見につきましては、彫刻は「渚」「鷗」のみの再設置で、抽象彫刻は設置しないというように考えています。

アンケートにおいて彫刻の再設置希望が多数あったため彫刻は再設置しますが、「愛の手」については再設置への反対要望や、ジェンダーの視点から裸像設置はいかがなものかという意見をいただいたため「渚」と「鷗」のみ再設置してはどうかという事業者側の意見です。

5つめ、橋が美しいかではなくてどの様に使われるかが大事というご意見について、「1. にぎわいを育む橋」、「2. 立ち寄りたくなる橋」として設定しております。具体的には、橋詰部に多機能広場環境を整備、観光プロムナード全体の調和をはかる整備、にぎわいの場として歩道空間を活用できるしくみ作り、眺望を楽しみ、休憩談笑できるベンチ等の設置を考えています。

6つめ、使いながらデザインしていったらどうか、皆で育てていく橋は景観的に最先端だというご意見については「1. にぎわいを育む橋」として設定し、内容として、橋詰部の宝塚大橋寄りにある広い部分にタクティカル・アーバニズム（実証実験、戦略的都市計画、都市的構造）を取り入れた空間を確保したいと思います。例えば、駅の近くにあるストリートピアノのようなものもタクティカル・アーバニズム的な考え方かと思えます。

7つめ、これまで愛されてきた橋なので元のイメージを継承してはどうかというところについては「1. にぎわいを育む橋」、「2. 立ち寄りたくなる橋」として設定し、緑、ベンチ、手塚パネル、彫刻再設置による継承を図ろうと考えています。

8つめ、思い切ったフレッシュさも感じられるようなデザインについては整備方針で設定したところと、備考欄の多目的広場を整備することと、にぎわいの場として歩道空間を活用できるしくみ作り、眺望・談笑できるベンチ、今の利用状況に対応した通行安全性の確保というところで前回の委員の皆様からのご意見についての対応を考えています。

1番目の備考欄に事例調査の実施とありますが、事前調査の内容につきましては参考資料をご確認ください。

続いてアンケートの調査結果からの対応です。

1の整備の方針といたしましては、上流部は周辺環境に相応しい景観を形成する整備、下流部は通行空間を重視した整備にしてはどうかと考えています。

どういった経緯でこのようになったかといいますと、まず、設問6で「現在の

宝塚に相応しい姿にして欲しい」の希望が1番多く、また、一般および橋上の集計別において、橋上は一般と比較して「シンプルで広い歩道にして欲しい」の希望が高いことと、10月28日(木)の7:00~19:00に実施した利用者状況をカウントしたところ、自転車が上流側で441台、下流側で1,028台であり、下流側の自転車の通行が非常に多く、通行の合計数においても上流側で2,993、下流側で3,694であり、下流側の通行量が多いことが分かりました。

また、橋の上の歩道空間の整備において期待することを、利用する方の頻度別に表にしたクロス集計も行いました。アンケートにご回答いただいた方全体の中で、ほぼ毎日通行される方は368人で19%ですが「シンプルで広い歩道にして欲しい」と希望される方が27.9%で8ポイントほど多くなっています。

どのような目的で通行されたかという質問に対しても同じくクロス集計しております。通勤で利用されている方が25.5%で約9%こちらが高くなり「シンプルで広い歩道にして欲しい」と希望される方が多い傾向です。反対に少ない部分は青字でハッチングしております。こういったところから上流は景観を形成する整備、下流は通行しやすい整備と言う事で上下流を分けた整備にしてはどうかと言う事を提案したいと思えます。

2の現在の宝塚に相応しい姿と言うところについてですが、整備方針「1. にぎわいを育む橋」、「2. 立ち寄りたくなる橋」として設定させていただき、眺望ポイントの確保、休憩できるベンチの整備と言うところでどうかと考えています。

こちらは設問6で「現在の宝塚に相応しい姿にして欲しい」という回答が他と比較し多いところからきております。また、設問8で、「武庫川・歌劇場等眺望」が他の回答を大きく上回り、次に「写真撮影」、「休憩・談笑」が多いということから、このようなベンチや眺望ポイントを確保するのが良いと考えました。

3の整備する施設、反対に整備しない施設・整備検討施設という事で、整備する施設としては「みどり」、ベンチ、手塚パネル、彫刻は再整備の方向で、彫刻については「渚」「鷗」を再設置する方向で検討しています。整備しない施設・整備検討施設については彫刻「愛の手」は設置を見送り、レンガ舗装は、歩行の安全性から主たる歩道以外の箇所、アルコーブ等での活用を検討しています。理由につきましては、「愛の手」の再設置への反対要望やジェンダーの視点、裸像設置の反対意見があった事、タイルは滑りやすいため安全性に問題があると意見があった事、設問5の結果で、周りの風景、手塚パネル、レンガ舗装への思いが特に強く、続いてシェルター、緑地帯、彫刻が好まれていた事のためです。

4の歩道や橋詰めでしたいこととしましては、周りの風景を楽しめる休憩場所を整備する、そして談笑できるベンチを整備するとしております。

これにつきましては設問7で「武庫川・歌劇場等眺望」が他の回答よりも大きく上回ったことと、次に「写真撮影」、「休憩・談笑」が多いところからきています。

5の維持管理活用については、整備方針「4. 長く使い続けることができる橋」として維持管理の容易化や、地域とのパートナーシップによる管理を推進したいと考えています。

それにつきましては設問8からきており、年代別クロス集計において、30代は「軽飲食」や「販売活動の関心」が高めで、40代は「イベント開催」の関心が高く、60代以上は「市民花壇のガーデニング」や「ボランティア活動」の関心が高い傾向にあることが分かりましたので、そのあたりから対応としてあげさせていただきます。

ご説明させていただいたものを平面的に配置し、図に表した資料がありますのでご覧ください。左上に掲げた整備方針と、それに対する具体策をそれぞれ示しております。

順に説明いたしますと、「連続性を感じる橋上緑地帯等の整備」、「タクティカル・アーバニズム、実証実験の場としての空間確保」、「みどり・彫刻・バナー等による調和」や「イベント空間としての活用の誘導」と考えています。

「立ち寄りたくなる橋」の具体策としましては、風景になじむ色彩による調和、彫刻「渚」、「鷗」や手塚パネルの再設置、眺望を楽しみ、休憩談笑できるベンチ等の設置、維持管理を考慮した「みどり」の配置を考えています。

「利用者が安心して通行できる橋」については、周辺利用者の増加を考慮した歩道幅の確保、橋梁の補修による長寿命化と耐震化を考えています。

「長く使い続けることが出来る橋」といたしまして、橋梁の維持修繕と点検の実施、修繕しやすい舗装材や維持管理を考慮した「みどり」の活用、歩道の拡幅による交通安全性の改善、災害に対する強靱さの向上、地域とのパートナーシップによる活動の推進、というように具体策を提案したいと思います。

これをそれぞれ平面的にどのように配置していくかについて、第1案から第3案まで記載しております。第1案が「復元型整備」、第2案が「通行環境確保型整備」、第3案がその折衷案です。

事務局側としましては第3案を推したいと考えており、第3案を展開したものがこちらの資料です。

左側赤で囲まれた上流側歩道では、周辺環境に相応しい景観を形成する整備をして、左下青で囲まれた下流側歩道では通行空間を重視した整備を行っていくという考え方です。それぞれの説明文に先ほどご説明いたしました具体策の番号を赤や青や緑で割り振っています。

宝塚大橋橋詰広場は、眺望ポイントとして考えました。また、広場に隣接して銘板・案内板の設置を考えています。眺望ポイントにもなる橋銘板を再設置、また歴史を感じる案内板等の設置を検討しています。

右側の黄色の星印は彫刻のあるアルコーブで、観光プロムナードを彩る彫刻の設置、そして眺望ポイントとしたいと考えています。

「鷗」と「渚」については上下流に分かれていましたが、今回は上流側に再設置しようと考えています。

眺望休憩エリアですが、武庫川の河川、鉄道、劇場などを眺望できる休憩の場として整備し、観光客やカップル等が休息できるベンチで構成したいと考えています。

橋雁行部では、安全性確保のため「みどり」の配置を考えています。ここはちょうど橋の広い部分から狭い部分に絞られる部分ですので自転車に乗られた方が激突しないようにと言う事でここに何か配置したいと考えています。

次に下流側ですが「みどり」の設置という事で、連続性を感じる植栽帯やプランター等の適宜配置を検討しています。

車道側歩道施設については、乱横断防止施設として柵、「みどり」、壁等を設置し、また、風景を楽しみながら休憩できるベンチの適宜設置を考えています。

手塚パネルについては手塚治虫記念館へ直接繋がる下流側に再設置を検討しています。

歩道舗装は観光プロムナードの他の歩道と統一し、安全に通行できる自然色アスファルト舗装を基本にして、人気の高いタイル舗装は主たる歩道以外のアルコ

ープの張り出し部分やベンチの部分等での活用を検討しています。

下流眺望アルコーブについては、歌劇や阪急のみではなく武庫川の立ち見眺望ポイントと考えています。

照明灯については、観光プロムナードと調和を図るバナーを掲載したいと考えており、旗のようなもので例えば手塚治虫記念館でイベントが行われている時などにそれを知らせるようなものを掲げられないかと考えています。

ソフト対策では、積極的な活用の誘導、地域とのパートナーシップによる活動の推進を検討したいと考えています。

右上にコンセプト案として「景観を楽しみ、使い育てる橋」と掲げさせていただきました。

今のご説明をパースにしたものがございますのでそちらもご覧ください。

宝塚南口駅側の三角形の広場部分に色々なものを置くという案もございましたが、実証実験の場として広い空間がある方が良くと言う事で歩道との分離のためのプランターのみの設置となっています。

緑については、上流は右岸側から左岸側に向かって緑が連続しており、下流側については広い歩道を提供するようになっております。例えば、キッチンカーに来て頂いたりすることも可能かと思えます。

上流側にカウンターを整備してはどうかと考えており、座るのではなく立って利用するカウンターとして、例えば近くのカフェなどのコーヒーをここに持ってきて休憩しながら眺望が楽しめるエリアになっています。カウンターの上にはプランターが配置できるようにくぼみが設けられておりカラーリーフや花を植えることも可能で、その時々で自由に使えるようにと考えています。

橋上流部の真ん中には対面で座って話ができるスペースを考えています。上流側に曲線を使った木製ベンチの設置を考えており、プランターについてはベンチの上にプランターを設置するようなものもよいかと考えています。

同じようにベンチ部分という事でベンチの横にスツールのような簡易なイスを置くこともできます。下流側については、通行者を重視すると言う事で広い空間にしています。

手塚パネルについては、足元にあるのが踏み絵のようで嫌だという意見がありましたので、一例として真ん中に5つ集めてみたイメージをお示ししていますが、欄横断防止の策にかけるなど様々なやり方があるかと思えます。

イメージとしてはこのように考えております。

続いて、参考資料についてご説明致します。参考資料1の街路の活用・パークレットで、色々な事例を集めております。まちの景観としてやってみるといところが活動景観のもとになっているものです。

参考資料2は住民活動と一緒にあって整備しているものの一覧です。

参考資料3は休息施設を集めたものです。曲線的なもの、直線的なもの、テーブルに木が生えている物、スツールが並んでいるものもあります。

参考資料4も休息施設を調べたものです。ライトアップされたものや、景色を見るためにカウンターを設置し、スツールが並んでいるものもあります。

参考資料5は植栽で、カラーリーフを用いた植栽により花ではなく葉を楽しむことで維持管理費が抑えられるという例や、砂利のような黒めの石や芝パネルのようなものを活用することで環境整備が出来るという例です。

参考資料6は海外の事例になりますが、ニューヨークのハイラインや国内では



浮庭橋や宇治橋を参考に出させていただきました。

参考資料7は阿倍野歩道橋などで、これは地域の代表も審査に参加したデザインコンペで決められたものです。

参考資料8は学識の方のご意見も頂戴し、神戸市の三宮元町間にあるK O B Eパークレットなどを参考にしてはどうかと考え提案させていただいております。

ベンチなどの整備は市が負担し、管理は地元のまちづくり協議会が行っているという例です。

参考資料9ですが、既存のオブジェがどのようなものなのかというところをご説明しております。「渚」と「鷗」については淀井敏夫先生という朝来市出身の方がつくられた作品で、「愛の手」については新谷琇紀先生という神戸市出身の方がつくられた作品です。「愛の手」については設置当初から様々なご意見もあつたようで、ジェンダーの視点から設置に疑問の声というのも意見としてありました。

参考資料10は、宝塚南口や宝塚歌劇の周りの観光プロムナードにどのようなオブジェがあるかという一覧です。

なお、参考資料につきましては、著作権のため、この審議会のみで取り扱うものとします。

#### 【質疑応答】

会長

委員の方からご意見質問等ございましたらお願い致します。

委員

アンケートの実施によって、市民や来訪者の宝塚大橋の利用目的や思い、整備に対する希望が把握できたのは大きな成果です。

アンケート結果と審議会での意見を踏まえた整備方針はおおむね妥当と考えます。ただ、整備方針をどのようにデザインとして落とし込むのかがまだ見えてきません。

市民の望む内容をただ断片的に反映した設計では、必ずしも優れた橋とならないと考えます。橋全体としてデザインをまとめあげていただければと思います。魅力的な橋となることを期待しています。

委員

先ほどイメージ図を拝見しましたが、例えばベンチの横などで、床材を切り替える部分に段差ができています。安全上問題ですので、どんな素材で切り替えるにせよ、床は必ずフラットで構成すると言う事だけは貫いていただきたいです。

特にレンガ半分くらいの中途半端な段差が一番危ないと思いますので、そのあたりはよく気を配っていただきたいと思います。

今はイメージの段階ですから、イメージ図のデザインについて細々と意見をつける段階ではないと思いますが、全体的に物々しくごつごつとした仕上がりに感じますので、完成する橋については、宝塚らしく人や物へ優しく、目にも優しい、触っても優しい、というものになるようご留意いただきたいと思います。

委員

第3案を目指したいとお示しいただきましたが、どちらかというとも第1案の復元に近いような印象を持ちました。それでいて、今回の案は、歩道の幅を広くとって、花壇の仕様が少し下がっている案というように感じます。

イメージ図では、自然石か大理石を磨いたような白い素材になっているのですが、それが高欄部分とも違っているのであまり調和しておらず、また、あまりシ

ンプルにもなっていないような気がします。現行の橋は、高欄と車道側の花壇の素材が概ね調和しており、花壇の線形で優しさを出しているというようなデザインかと思います。

それから、座れる部分と緑地帯が固定化されているようにも見えましたので、お示しいただいているようなタクティカル・アーバニズムよりは、初めから作りこまれた空間というようにも見えました。

ご説明いただいたコンセプトからすると、例えば花壇は花壇、ベンチはベンチと分けて作りこんでいるようなものでしたが、一体的にベンチと言いますか、低く座れる所を広く長くとっておいて、あまり座る人が居ないだとか殺風景すぎるという事であれば、その上にコンテナの幅と合う花壇を乗せて改変していくという事も考えても良いかと思います。

それから、橋のたもとの部分ですが、南口の方の三角形の所を広場と一体に使うとするなら、植栽はここに無い方が良くと思います。

委員

まず、この事業は、ランドスケープが専門の事務所をしっかりと入れてやっていただきたいと思いますので、宜しくお願い致します。

次に、先ほど意見がありました。現行の橋は植栽帯が波型をしていて、その中にベンチを上手く組み込まれています。あの表現は良く出来ていますので参考にさせていただいて、優しい橋にさせていただきたいです。宝塚市らしさを表現する意味でも、現行の橋のコンセプトは頭に置きながらやっていただけるとありがたいと思います。

次に、やはり床舗装はレンガタイルにさせていただきたいと思います。アスファルトとレンガでは全く違ったものになります。この橋は大事な橋ですし、これまでレンガタイルを貼っていたので、これは頑張ってもらいたいです。

次に、高欄の修復についてです。現行の高欄は御影の小石の洗い出しに、アルミの縦格子、土台がコンクリート、この3つの要素で出来ています。

最初の2つは洗浄して綺麗にすると問題ないと思いますが、難しいのは土台の部分です。コンクリートが汚れていて、さらにL形に曲がっていて橋の側面に汚れが垂れ下がっています。例えばS字橋は、御影石で土台をカバーしています。可能であれば同じようにすると、随分雰囲気が良くなると思います。

最後にもう一点、宝塚大橋の下は、河川敷になっていて市民の広場として整備されており、多くの人が散策をしている場所です。今は橋桁の下がとても汚い状態になっていますが、ここは今後どのようにされるのでしょうか。

橋は上を通る事と、下を通るという二つの役割がありますから、橋の下もこの際ぜひ検討していただきたいです。

よくありますが、壁面から汚れが垂れている部分を塗装してもまた汚れますので、上部に水切りなどをつけて壁面に汚れが垂れないような工夫をしっかりとせずと橋の下が綺麗なままになるようにされたらどうかと思います。

現在は耐震補強の工事の足場が組んでありますが、今後柱脚をどうするかの方針を早く決めないと足場が無くなってしまおうと思います。そうすると二度手間になりますので、足場があるうちに考えていただきたいです。

会長

ありがとうございます。いろいろ意見がありました。施行の部分について現在は高欄の基礎部分が汚れているがどのように改修されるのか、という事について事業者から何か回答できることはございますか。

事業者

ご意見ありがとうございます。

今回の宝塚大橋ですが、基本的にはメンテナンスがベースになっています。高欄部分については変更の予定はございません。補助事業の予算限度もございませし、県と市でプラスアルファの景観部分まで予算を確保できる余裕が全くありません。

我々としましては、補助事業で見てもらえるところは極力補助事業を活用して、可能な範囲で景観対策を行っていきたいと考えています。

お話にあった橋桁の部分は、劇場側は60%以上が元の色で再塗装済みです。橋脚についても耐震補強が終わり脚の部分に何か出来る状態ではありませんので、今は歩道部分をどうしていくかについて検討したいと考えています。

会長

今回の議論の対象は、歩道部分だという理解でよろしいでしょうか。

事業者

はい。財政上、歩道部分の整備が限界という状態です。

委員

修復工事として、手を加えなくても良い箇所があるのはもちろん理解しています。しかし、例えば植栽部分を今回新設して、反対側の高欄の土台を見たらコンクリートが汚れたままの状態で放ってあるというのは、いかがなものかと思えます。花壇に石を使っているなら、高欄の足元の汚い部分にも何かしないと意味がないと思えます。

高欄の足元は、舗装をやり替える時に取り合いになる部分でもありますし、橋全体を良くするために全体的に見て、ご判断いただきたいと思えます。

委員

最近、電動アシスト付きの自転車で宝塚大橋を通行されている方をよく見かけます。かなりスピードを出して通られるので、自転車専用の部分があると安心だと思います。

もう一点、タイル舗装についてです。難しいとのことでしたが、アンケートでも人気でしたし、私自身も是非タイル舗装を残してほしいと感じています。

もし、違った舗装にされるにしても、全体的に柔らかな雰囲気になるようにしていただきたいと思えます。

会長

歩行者と自転車の共存の仕方について検討されていることはありますか。

事業者

手法として考えられるのは、一本線を引く程度かと思えます。真ん中に一本線を引いて、一方を自転車通行として推奨するというようなことです。

車道側に自転車用レーンを作るという考えは当然でございますが、現実的には難しいと考えています。理由としては、まず、橋は幅が決まっているので難しいこと、さらに宝塚大橋は現状でも非常に渋滞しているためです。例えば、車が少なくなるならば、自転車レーンを車道の方にしっかり入れていく事は可能ですが、高齢者や子連れの方に必ず車道を走るようには言えないところもあり、結局自転車を押してでも歩道を通る可能性を考えると、下流側で可能な限り広い自歩道として整備するのが良いと考えました。

今回のアンケートの自由意見の中では、「自転車と接触事故があり危なかった」「自転車と歩行者の通行を分けて欲しい」という意見が非常に多かったです。名

指しで書かれているものもあり全て公表するのが難しかったのですが、怪我をしたと書かれている方もいらっしゃいました。

そういったご意見を伺うと、安全上の問題から、どうしても滑りやすいタイル舗装を強く推すのも難しいと考えております。また、タイル舗装については色々な可能性についても検討して参りました。タイル風のシールを張ることなど考えましたが、やはり本物を好まれる宝塚の気質というようなものも感じており、アルコーブなど歩道以外の部分でタイルを使用することを考えております。

委員

今回アンケート結果から、市民の方の意識が分かってきたことがすごく良かったと思います。

毎日通行される方の中には、「シンプルで広い歩道にしてほしい」という意見が多いとご説明がありましたが、整備のコンセプトにあるような「賑わいをはぐくむ」や「立ち寄りたくなる橋」にしていくには、むしろ週に数回や月に数回利用する方にいかに橋を歩いてもらうか、買い物の利用やレジャー観光、散策と言った方の利用をどう促すかが大切ではないかと思われました。

週に数回や月に数回利用する方の意見では工事前の姿に戻してほしいという意見も結構多いですので、かつての景観やデザインを踏襲していくという要望も軽視すべきではないと思います。

また、タイル舗装の危険性については、滑り止めなど技術的に解決可能なものがあるのではないかと考えます。タイル舗装がアルコーブや花壇のみとなってしまうと、橋にあった連続性や象徴性というような市民に愛されてきた景観の特質が失われてしまうのではないかと考えますので、是非ご検討いただきたいです。

それから、先ほどの委員のご発言でもありましたが、橋詰広場については、構造物を置かずに、広場として広く使えるようにした方がイベントをする時にも使い勝手が良いと思います。

下流側は通行のためかもしれませんが、緑地帯を大きく削っているように感じました。幅を少し抑えながらも、連続性を担保しながら緑を配置いただければと思います。防護柵1枚で車道と歩道が隔てられているだけより、緑地帯で隔てられていると、景観だけでなく、安心感にもつながると思います。

会長

アンケートで現状の多数意見だけでなく、将来的にどのような人に来ていただきたいかという事も考慮するのが良いという意見かと思えます。

委員

宝塚大橋には現状で白線が引かれており、センターラインと路側帯のラインがあります。路側帯の幅は目視で1m以上あります。自転車用レーンをつくるのは難しいとのことでしたが、私の意見としては、この路側帯の部分を自転車用レーンにするのはどうでしょうかということですので、それでもできないのかということをご確認いただきたいと思えます。自転車用レーンを作って、安全を確保するのは大事なことで思えます。また、それによってデザインの仕方が随分変わるのでぜひ確認してください。

事業者

再度現地を確認させていただきたいと思えますが、現時点での我々の認識では、右岸側は一部余裕があるかもしれませんが、左岸側は右折用のレーンがあるため、1mは無いと思えます。自転車用レーンのためには、端から端まで通せる幅員が必要となります。また、雨水桝もありますので、安全に通行と言う事になると限

界に近いような幅の車道だと思います。

委員

手塚治虫記念館の前の交差点は直進右折と左折専用の2車線あり、南も入れると3車線なので、自転車専用レーンを作るのは難しいですし、渋滞すると思いますので、事業者の意見は妥当だと思います。安全性も確保しながら、全体を見てやっていただけたらと思います。

また、今回のご説明では、イメージが分かりやすく良かったのですが、特に緑が今後非常に大事になってくるのではないかと思います。宝塚は植木のまちや花のまちと言われており、造園関係者も沢山おられるのではないかと思いますので、地域にも声をかけていただけると良いのではないかと思います。

最後に質問ですが、オブジェについてはどのようにお考えでしょうか。

会長

緑について具体的にどのようなものを考えられているのかという事と、オブジェについてですが、いかがでしょうか。

事業者

緑については、ご意見いただいたことをまさに考えており、特に山本地区周辺にはあいあいパーク等もありますので、何か協働できればいいなと思っています。

オブジェについては非常に難しく、アンケートでは「渚」、「鷗」、「愛の手」はほぼ同数で気に入られていることが分かりました。しかしながら、オブジェに対してあまり良い印象をお持ちでない方もいるお話もお聞きしています。

事業者としても難しい決断です。景観審議会としてのお考えがあればお伺いしたいです。

会長

景観審議会としては、景観を議論する場ですので、景観上必要なら置いておくのが良いですし、必要でないなら撤去すればいいと言う事になると思います。ここで総合的な判断をする場ではないと理解しています。

委員

タクティカル・アーバニズムをしようとするならば、まずは土台としては、様々なことが出来るようシンプルなものにするという選択をされるのも良いと思います。

これまでのように良い物や凄い物を造ったら人が来るというような考え方ではなく、何かそこでやっていたり、変化するから人が来るという考え方です。例えば、先ほどご提案があったような地域の方が緑をやりたいと思った時にできるスペースがあって、それを見に来る人がいるというようなことだと思います。

時代が変わっていく中で、これからはランニングコストの時代です。出来た後、どのように良い状況を作るか考えたり、施策を打ったり、もしくは予算を確保したり、というようなことを続けていく事が重要だと思います。

県としても、市としても、そのような橋を使った賑わいというような事は、とても大切でしょうし、都市計画区域マスタープランでもこの場所は重要だと位置づけられているはずです。整備して終わりではありません。

施策としても、継続した取り組みを支援すると良いかと思っています。

会長

賑わいというコンセプトは、ハードで作るのではなく、人が集まって出来るものです。予算が付けば良いですが、予算がなくともボランティアで、市民が集まって色々整備するのも宝塚らしいということになるのかもしれないですね。

そのあたりも今後検討していただければと思います。

委員

今のイメージデザインはイメージという事で、今後しっかり作って頂きたいと思います。

また、タイル舗装について、どれだけ頭を飛ばして荒らすなどしても、やはり非常に滑ると思います。見た目は良いですが、雨で少し濡れているだけでも危ないです。高齢化が進んでいることもありますし、安全性も非常に大切ですので、慎重にご検討ください。

次に、自転車用レーンの話についてですが、自転車に乗る人の状況も色々あると思います。今は多くの自転車が電動になっていますので、スピードを出しているつもりでなくても出ており、歩行者からすると怖いのだと思います。しかし、お子さんを乗せている方や、足の力が弱くなって電動しか乗れない方も電動自転車に乗っておられ、そういった方は、とても車道の端の自転車用レーンでは走れないと思いますので、そのあたりも配慮いただければと思います。

それから、先ほど植栽の話が出ましたが、確かに花が植わっていた方が綺麗ですが、維持管理に非常に手がかかります。ボランティアに委ねるのも継続性の面で難しいところもありますので、例えば葉っぱの色で楽しめる低木を組み合わせて植えていくのも良いと思います。先ほども銀と緑の葉の組み合わせの植え込みの絵が描かれていましたが、あのように色々な発色のものを組み合わせて花のように見せるなど、出来るだけ維持管理に手がかからなくても綺麗な植栽というのも良いかと思います。必ずしも花にこだわらなくても良いかと思います。

最後に、くれぐれもかたい橋にしないでいただきたいというのが一番の願いです。また、賑わいなどの話は、気候のいい時の話だと思います。例えば、冬の橋は、吹きさらしになって厳しい環境になります。そういった時にどうあるかも少し考えていただければと思います。どのようにして風を防ぐかなど、様々なことを考えて人にやさしい橋にしてほしいと思います。

課題をたくさん申し上げてしまいましたが、よろしくお願い致します。

会長

多くの意見が出て、いくつかが矛盾するようなものもありましたが、意図を受け止めて解釈していただき、一つのデザインにまとめていただければと思います。

それでは、本日は以上で終了いたします。

3 閉会